

令和3年
12月24日

病害虫発生予報 1月号

茨城県病害虫防除所

農薬保管庫や防除器具の点検・整備を行いましょう！

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	1
促成トマト：葉かび病	2

【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン、促成トマト、促成キュウリ	2
-------------------------	---

【防除所レポート】

令和4年版果樹病害虫参考防除例について	3
---------------------	---

II. 今月の気象予報

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosi dou2/>

フェロモントラップデータ随時更新中



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、寄生葉率（本年値 24.5%、平年値 11.9%）は平年よりやや高い～高く、発生地点率（本年値 80%、平年値 56%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生が少ないうちに防除を徹底する。
② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病度*（本年値 9.8、平年値 4.1）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 50%、平年値 49%）は平年並である。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

促成トマト

1. 葉かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 12月中旬現在、発病度*（本年値 1.4、平年値 0.4）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 33%、平年値 11%）は平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、暖房、送風、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 抵抗性品種であっても発生する場合がありますので注意する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。
- ④ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤を用いてローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。
	コナジラミ類	発生量：平年並 ～やや多い	12月中旬現在、平年並～やや多い発生である。
ピーマン 促成	うどんこ病	発生量：やや少ない	12月中旬現在、平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。
トマト 促成	灰色かび病	発生量：やや少ない	12月中旬現在、平年よりやや少ない発生である。
促成キュウリ	褐斑病	発生量：平年並 ～やや多い	12月中旬現在、平年並～やや多い発生である。
	べと病	発生量：平年並	12月中旬現在、平年並の発生である。
	オンシツコナジラミ	発生量：やや多い	12月中旬現在、平年よりやや多い発生である。一部圃場で発生が認められている。

令和4年版果樹病虫害参考防除例について

果樹は、栽培期間が長く防除体系が複雑です。病虫害防除の際には、主要な病虫害の発生生態や例年の発生状況をふまえて、効果的な防除時期と薬剤を選定し、体系的な防除対策をとる必要があります。また、薬剤耐性・抵抗性の発達を抑えること等も考慮しなければなりません。このため、茨城県果樹病虫害参考防除例編成会議では、県監修により果樹病虫害参考防除例（以下、防除例）を6作物7種類について作成し、農薬の適正使用および効果的な防除の推進を図っています。

令和4年版の防除例について、昨年版からの主な変更点を以下にまとめました（図）。防除例の利用にあたっては、変更点に十分注意しましょう。また、過度の農薬散布を防ぎ、農薬による危被害のリスクを下げるためにも、冬季の落葉処理や粗皮削り等の環境にやさしい防除技術を導入した上で、発生予察情報や自身の圃場での病虫害発生状況を十分確認し、必要に応じた薬剤防除を行うようにしましょう。

令和3年版

品目	時期，記載場所	薬剤名等	変更の種類	変更理由
露地赤ナシ無袋	休眠期	機械油乳剤95	記載位置を変更	①
	6月中旬	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	②
	6月下旬	オリオン水和剤40	薬剤を変更	③
	新梢発育停止期 (7月上旬)	カネマイトフロアブル ストロビードライフロアブル	薬剤の追加	④
露地巨峰	開花直前 (5月下旬)	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	⑤
	落花後～ 小豆粒大期まで	アトマイヤー顆粒水和剤	薬剤を変更	⑥
	7月上旬 (注意事項欄)	トリフミン水和剤	薬剤の追加	⑦
雨よけ巨峰	開花直前 (5月上～中旬)	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	⑧
	大豆粒大期 (幼果期) (注意事項欄)	トリフミン水和剤	薬剤の追加	⑨
カキ	新梢伸長期 (5月中旬)	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	⑩
	幼果期 (6月下旬～ 7月上旬)	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	⑪
ウメ	5月中旬 (注意事項欄)	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	⑫
リンゴ	開花直前 (4月中～下旬)	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	⑬
	6月中旬	スプラサイド水和剤	薬剤を変更	⑭
	8月上～中旬 (注意事項欄)	ディアナWDG	薬剤を変更	⑮
	9月上～中旬	サムコルフロアブル10	薬剤を変更	⑯

令和4年版

変更後の内容
芽が動き出す前 (3月上旬まで)
オリオン水和剤40
エクシレルSE
トランスフォームフロアブル カネマイトフロアブル ストロビードライフロアブル
バリアード顆粒水和剤
コルト顆粒水和剤
トリフミン水和剤 プロパティフロアブル
バリアード顆粒水和剤
トリフミン水和剤 プロパティフロアブル
オリオン水和剤40
バリアード顆粒水和剤
コルト顆粒水和剤
エクシレルSE
オリオン水和剤40
スピノエースフロアブル
ディアナWDG



図 果樹病虫害参考防除例の主な変更点（薬剤の追加・削除等があった箇所）

なお令和4年版防除例は、令和3年10月13日現在の農薬登録内容に基づいて作成しています。農薬の登録内容は変更になる可能性がありますので、農薬使用時には必ずラベルおよび登録変更に関するチラシ等を確認し、適正に使用して下さい。

○変更理由は以下のとおりです。

【露地赤ナシ無袋栽培】

- ①芽が動き出す前の時期のハダニ類、カイガラムシ等の防除の重要性を意識しやすいよう、機械油乳剤95の記載位置を冒頭としました。
- ②6月中旬のアブラムシ類、シンクイムシ類の防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤として同等の効果が期待されるオリオン水和剤40に変更しました。
- ③上記②でオリオン水和剤40を使用するため、6月下旬の防除では、その代替としてハマキムシ類やシンクイムシ類を対象にエクシレルSEに変更しました。
- ④カイガラムシ類対策を強化するため、7月上旬にトランスフォームフロアブルを追加しました。

【露地巨峰】

- ⑤開花直前の防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤としてコナカイガラムシ類、チャノキイロアザミウマに登録のあるバリアード顆粒水和剤に変更しました。
- ⑥落花後～小豆粒大期の防除について、害虫の抵抗性発達回避のため、⑤と別系統の薬剤で、チャノキイロアザミウマやカイガラムシ類に登録のあるコルト顆粒水和剤に変更しました。
- ⑦注意事項欄でのうどんこ病対策として、トリフミン水和剤に加えて、薬剤系統の異なるプロパティフロアブルを追加しました。

【雨よけ巨峰】

- ⑧開花直前の防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤としてコナカイガラムシ類、チャノキイロアザミウマに登録のあるバリアード顆粒水和剤に変更しました。
- ⑨注意事項欄でのうどんこ病対策として、トリフミン水和剤に加えて、薬剤系統の異なるプロパティフロアブルを追加しました。

【カキ】

- ⑩新梢伸長期の防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤としてカイガラムシ類、アザミウマ類に登録のあるオリオン水和剤40に変更しました。
- ⑪幼果期の防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤としてコナカイガラムシ類に登録のあるバリアード顆粒水和剤に変更しました。

【ウメ】

- ⑫注意事項欄に記載のカイガラムシ類防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤としてコルト顆粒水和剤に変更しました。

【リンゴ】

- ⑬開花直前の防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤としてハマキムシ類に登録のあるエクシレルSEに変更しました。
- ⑭6月中旬のアブラムシ類、シンクイムシ類の防除について、スプラサイド水和剤製造中止により、代替剤として同等の効果が期待されるオリオン水和剤40に変更しました。
- ⑮注意事項欄のハマキムシ類、シンクイムシ類防除でのディアナWDGは、本欄で使用するため(⑯参照)、代替剤としてスピノエースフロアブルに変更しました。
- ⑯エクシレルSEの本欄への採用(⑬参照)により、IRACコード28(ジアミド系)の剤数が増加するため、害虫の抵抗性発達回避を目的に、9月上～中旬のサムコルフロアブル10(IRACコード28)をディアナWDG(IRACコード5)に変更しました。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 12月25日から1月24日)

気象庁 (12月23日 発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]	要素	予報対象地域	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
	気温	関東甲信全域	50	30	20
	降水量	関東甲信全域	40	30	30
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 12月25日 (土曜日) から12月31日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低い確率80%

<2週目の予報> 1月1日 (土曜日) から1月7日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 低いまたは平年並の確率40%

<3週目から4週目の予報> 1月8日 (土曜日) から1月21日 (金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散 (ドリフト) しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類 (FRAC コード、IRAC コード) の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。